

令和7年度第1回犬山祭伝承保存委員会 次第

と き 令和7年5月27日(火)
午後1時30分～3時00分
ところ 犬山市役所 2F 202・203 会議室

次 第

1. あいさつ

2. 報告事項

- (1) 令和6年度犬山祭伝承保存委員会関連の主な活動について・・・p.1
- (2) 犬山祭の保存・活用に関する届出等について・・・p.2～3
- (3) 車山等の不具合等に関する報告
(令和7年犬山祭終了後の照会による新規報告案件)・・・p.4～13
- (4) 令和6年度修理事業について
中本町修理事業(水引幕)・・・p.14～19
※別綴資料1〔非公開〕

3. 協議事項

- (1) 令和7～8年度修理事業について
中本町修理事業(水引幕)・・・p.14～26
- (2) 令和7年度修理事業について
寺内町修理事業(車輪等)について・・・p.27～46
- (3) 保存修理に関する年次計画について・・・別紙1〔非公開〕

4. その他

- (1) 令和7年度第2回委員会の開催日程について・・・別紙2

令和7年度第1回犬山祭伝承保存委員会出席者名簿

●日時 令和7年5月27日(火) 13時30分～15時00分

●会場 犬山市役所2F 202-203会議室

犬山祭伝承保存委員会委員

(敬称略・順不同)

役職名	氏名		備考
委員長	鬼頭 秀明	元文化審議会専門委員、中京大学非常勤講師	
委員長代理	菊池 健策	元文化庁文化財部伝統文化課主任文化財調査官	ご欠席
委員	入江 宣子	日本民俗音楽学会会員・民俗芸能学会会員	
委員	藤井 健三	財団法人西陣織物館顧問	
委員	石樽 康彦	日本ロボット学会会員・日本機械学会会員・工学博士	
委員	岩田 敏也	愛知県文化財保護審議会委員、東海工業専門学校講師	
委員	多和田 兼道	(一社) 犬山祭保存会専務理事	ご欠席
委員	小林 幹和	(一社) 犬山祭保存会参与	
臨時委員	栗谷 和男	令和6～8年度事業実施町内(中本町)代表	任期: 中本町修理事業完了迄
臨時委員	三輪 征宏	令和7年度事業実施町内(寺内町)代表	任期: 寺内町修理事業完了迄

オブザーバー

(敬称略)

氏名		備考
前田 俊一郎	文化庁文化財第一課民俗文化財部門主任文化財調査官	
波多野 晶	愛知県県民文化局文化部文化芸術課文化財室主任	

事務局

氏名		備考
中村 達司	犬山市教育委員会教育部長	
加藤 憲夫	犬山市教育委員会教育部歴史まちづくり課長	
小川 正広	犬山市教育委員会教育部歴史まちづくり課長補佐	
市野 恵子	犬山市教育委員会教育部歴史まちづくり課統括主査	
興石 みゆき	犬山市教育委員会教育部歴史まちづくり課	

■令和6年度犬山祭伝承保存委員会関連の主な活動記録(打合せ等は省略)

	犬山祭伝承保存委員会		修理委員会[中本町]	
	内容	出席者等 (敬称略、順不同、事務局は省略)	内容	出席者等 (敬称略、順不同、事務局は省略)
6/6/6	第1回犬山祭伝承保存委員会	各委員、文化庁、愛知県	全体会議(水引幕復元新調詳細仕様の確認)	中本町、文化庁、愛知県、鬼頭、藤井、久保、(株)龍村美術織物
R6/8/9			金具の製作方針確認	鬼頭、(株)龍村美術織物、(株)内田刺繍工房、(有)松田
6/8/20	本町及び寺内町車山の現況確認調査	岩田、本町、寺内町		
6/8/25			刺繍試作確認	中本町、藤井、(株)龍村美術織物
6/9/3	寺内町からくり人形修理経過確認	石樽、寺内町		
6/9/20			刺繍試作の修正確認	藤井、(株)龍村美術織物、(株)内田刺繍工房
6/9/26	内田町子供競子用具の現況確認調査	鬼頭、内田町		
6/10/17			刺繍試作の修正確認と本製作の進捗確認	藤井、(株)龍村美術織物、(株)内田刺繍工房
6/11/5			刺繍本製作の進捗確認と金具の試作確認	中本町、鬼頭、藤井、(株)龍村美術織物、(株)内田刺繍工房、(有)松田
7/1/16			刺繍本製作の進捗確認	藤井、(株)龍村美術織物、(株)内田刺繍工房
7/1/17			金具製作の進捗確認	中本町、鬼頭、(株)龍村美術織物
7/1/30	第2回犬山祭伝承保存委員会	各委員、文化庁、愛知県		
7/2/27			刺繍上がり検収	藤井、(株)龍村美術織物、(株)内田刺繍工房
7/3/7	寺内町車輪等修理検討会	鬼頭、岩田、寺内町		
7/3/11			完了検査	中本町、鬼頭、(株)龍村美術織物

犬山祭〔国・県指定文化財〕に関する届出等について（前回委員会以降提出分）

1. 現状変更、保存に影響を及ぼす行為等			
①	届出先	愛知県知事	届出者 (一社) 犬山祭保存会
〔内容〕			届出日 : R7/3/13
○保存に影響を及ぼす行為			
・中本町まちづくり拠点施設に展示中の車山 4 輦への下記事項			
①提灯電飾施工（名栗町 英 ）			
②展示用幕装着（下本町應合子・中本町西王母・鍛冶屋町壽老台・）			
○保存に影響を及ぼす行為の理由			
①中本町まちづくり拠点施設における車山展示の演出の為			
②中本町まちづくり拠点施設展示ホールの照明、設定湿度（60%）等が本物の懸装幕の保存に適さない場合がある為（展示行為自体が保存に適さない場合がある為）			
○着手及び終了の時期			
・着手：令和 7 年犬山祭後 終了：R8/03/31（予定） ※毎年度更新中			
2. 管理責任者の選任又は解任			
なし			
3. 所有者等の変更			
なし			
4. 所在の場所の変更			
①	届出先	愛知県知事	届出者 (一社) 犬山祭保存会（本町）
〔内容〕			届出日 : R7/4/25
○所在場所変更物件及び期間			
・本町車山（咸英）：R7/4/6～R7/6/6（予定）			
○所在場所変更理由			
・第 63 回神官式年遷宮御神木奉迎送への円滑な参加に備えるため。			
○変更中の所在の場所			
・中本町まちづくり拠点施設（犬山市大字犬山字東古券 62）			
②	届出先	愛知県知事	届出者 (一社) 犬山祭保存会（枝町）
〔内容〕			届出日 : R7/4/25
○所在場所変更物件及び期間			
・枝町車山（遊漁神）：R7/6/15～R7/9/13（予定）			
○所在場所変更理由			
・枝町車山蔵の改修工事期間中、車山を待避させるため。			
○変更中の所在の場所			
・余遊亭別館（犬山市大字犬山字東古券 363-3）			
5. 滅失、き損、亡失等			
①	届出先	愛知県知事	届出者 (一社) 犬山祭保存会
〔内容〕			届出日 : R7/5/7
○毀損箇所と状況			
・別紙参照			

6. 修理
なし
7. その他
なし

車山等の不具合等に関する報告（令和7年度犬山祭終了後の照会による新規報告案件）

地区	箇所・内容	発生時期	原因	その他参考情報	確認日程	確認結果	修理方針	実施内容
枝町	提灯受けの破損	R7犬山祭	経年劣化・車山運行に伴う振動	・提灯設置時のみ車山に装着する木枠であり、車山本体の一部ではない。 ・応急処置済（結束バンドにて固定）。	-	-	町内は新規製作による取替を検討中。	
魚屋町								
下本町	からくり人形の部品である舞棒（松製）の片側端部の亀裂破損 [R6届出済]	R6/10/20	使用時の点検時、端部の落下	・からくりは掛けには影響のない箇所の破損である。 ・応急処置済（結束バンドにて固定）。 ・人形師に相談の上修理方法を検討予定。				
	からくり人形の糸切れ。	R7犬山祭前の点検時	操作による糸の消耗	・別系で応急処置済。 ・人形師に相談の上適切な糸糸に交換予定。				
中本町								
熊野町								
新町								
本町	枝玉装束用の木製パーツ（腰根に取り付けられている）の留め金具はすれ	R7犬山祭	不明	・でされはR7年度中に車山の解体点検を実施し、その際に対処を検討したい。他にも不具合箇所があるかもしれない。	車山解体時 (旧年度)	木製パーツの頭部にひび割れが生じていることが留め金具が外れた原因である。 [確認者：市野→岩田委員に報告]	・木製パーツの金具製カバーを作り留め金具を溶接する方法で既存の木製パーツを継続使用する（既存のパーツは加工しない）。	
	車輪（左前後）の板金の釘が抜けてくることによる舞柱（×3）の破損 [R6届出済]	R7犬山祭 (この不具合は以前から発生していた)	車輪の板金の釘が飛び出ていること 車輪と車輪の間の隙が大きくなり、車輪が欠けやすくなる		R6/8/20	正面に向かって左（前後）の車輪の板金の釘が抜けている（左前後の車輪の外側は建築と並行物が溶接されている）。 [確認者：岩田委員]	・座板の釘の取替え。 ・鉄製のワッシャーの取替。 →ワッシャー（×4）と舞柱（×2）を ※注	
練馬町	（座板）軒端さへで軒板を固定しているが、軒板に打たれている鉄釘・軒端さの釘が、釘の頭の部分が欠け、良好に固定できない。	不明（確認したのはR6の犬山祭後の点検時）	これまでの組みばらしによる		R7/4/7 (車山解体時)	軒板の固定が困難な状況である。 [確認者：岩田委員]	・軒板の裏面に新調に鉄釘を打ち、軒端さへにも新調に穴をあける（鉄釘6本を既存品に使い替換製作）。 ・既存の金具と穴は位置。	
新治屋町	下山後方の設置板裏面の反り止め材の端は、部分割損し、反り止め材ははすれている。	不明（確認したのはR6の犬山祭後の点検時）	端はそに側面から力が加えられたことによる		R7/4/7 (車山解体時)	構造的には大きな問題はないが、材の腐敗への対応が必要。 [確認者：岩田委員]	・反り止め材を同寸同形で製作して取り替える。 ・端穴に付着した接着剤は剥がし取る。	
	中山台輪の端部にひび割れが生じ、木製獅子の固定用部材を留める釘が効かない状態である。新たな釘を打っても同様に効かない状態。	不明（確認したのはR6の犬山祭後の点検時）			R7/4/7 (車山解体時)	他の台輪の端部も同様の状態に近い。 [確認者：岩田委員]	・継木による補修が必要か。修理方法については大工さんと要相談。 →6/8に八野大工に相談予定	
	下山後方の彫木のうち2個において、ほぞ穴から端部にかけの部分が欠損している。	不明（確認したのはR6の犬山祭後の点検時）	柱を強く打ち込んだことによる		R7/4/7 (車山解体時)	柱が効かない状態の跡木がある。 [確認者：岩田委員]	・継木等による跡木の部分取替が必要か。修理方法については大工さんと要相談。 →6/8に八野大工に相談予定	
名栗町	中山修繕交差部の隅取直の先端（木口）の飾り金具の落下。	R7犬山祭	車山運行に伴う振動によって、真鍮製の釘が抜け落ちたことによる		R7/4/7 (車山解体時)	飾り金具に打たれている真鍮製の釘は、持ち直して金具の接点部を、（確認者：市野→岩田委員に報告）	・町内の指物師に相談のうえ真鍮製の釘を打ち直す予定。	
寺内町	中山修繕の横の飾り（平桁と地盤に差し込まれている）が破損している。	もともと破損していたものを町内で修繕して使用していた	R7犬山祭後の取り外し時の落下が今回の破損の原因		R7/5/27			
糸池町	お神のわがみ	約20年前から	経年劣化		-	-		
外町	桃枝の亀裂	約20年前から	運行の衝撃	金具版で亀裂箇所を巻いている。	-	-		町内は将来的に同亀裂部で保存修理を希望（特機リストにエントリ済）。
	斗（部分）の割れ	R7犬山祭前の車山組み時	車山組み中の落下	町内で補修済（水口用バンドにて接着）。				

犬山祭伝承保存委員会 鍛冶屋町車山現況確認調査 記録

日程： 令和7年4月7日（月）10:00～12:30

会場： 鍛冶屋町

出席者： 委員

岩田敏也氏

寺内町

市橋正光氏、三原三幸氏、陸浦隆司 他

事務局（市教育委員会歴史まちづくり課）

市野恵子

1. 屋根の軒押さえの釘

- 鍛冶屋町車山の屋根は、6枚の軒板を2本の軒押さえで固定している（軒板3枚に対し軒押さえ1本）。各軒板に2箇所ずつ留め釘（鉄の平釘）が打たれ、その上に留め釘を貫通させるための穴があいた軒押さえを載せて、釘ひも（ひもが付いた釘）を留め釘の首部の穴に通して固定している。現在、全12箇所の留め釘は、抜けているか、または深く沈みすぎているかのいずれかであり、そのため釘ひもを首部の穴に通すことができず、軒押さえを軒板に十分に固定することができない状態である。
- 鉄の留め釘を6本新調し、各軒板に新たに1箇所ずつ打ち込む。打ち込む場所は現在の留め釘の位置とは違う位置にする（予めどこに打ち込むかを町で決めておく）。軒押さえには対応する新たな穴をあける。既存の留め釘は軒板の横ずれ防止用に継続使用する。

2. 琵琶板の裏の補強材

- 下山後方の琵琶板の裏面には琵琶板の反りや曲がりを防ぐための棒状の補強材が3箇所付いている。補強材はヒノキ製で、車山そのものの強度には影響のない部材であり、蟻ほぞを琵琶板の蟻穴に差し込むかたちで取り付けられている。現在、琵琶板裏面の「四」の墨書の隣の補強材が、蟻ほぞ部分の割損により取れてしまっている。
- 補強材を新調し、既存の蟻穴をいかして取り付ける。ニカワなどで接着する。蟻穴に残っている接着剤は予め削り取っておく。

3. 中山台輪端部の彫刻留めパーツ

- 中山台輪の各端部には彫刻（木鼻獅子）を留めるための直方体の木製パーツが丸釘の打ち込みによって取り付けられている。うち1箇所において、台輪端部のひび割れによって釘が抜け、木製パーツが取れている。ひび割れがあるため、釘を打ち直しても効力がない。
- 台輪端部を接木によって造り替える必要があるかもしれない。修理方法は大工に相談のうえ決定する。

4. 下山縁葛下の腕木

- 下山縁葛下の腕木端部には栓を挿すための穴が開けられている。全部で6個同部材があるが、「前

二」と「後三」の墨書のある部材で、穴から端部にかけての部分が欠損している。

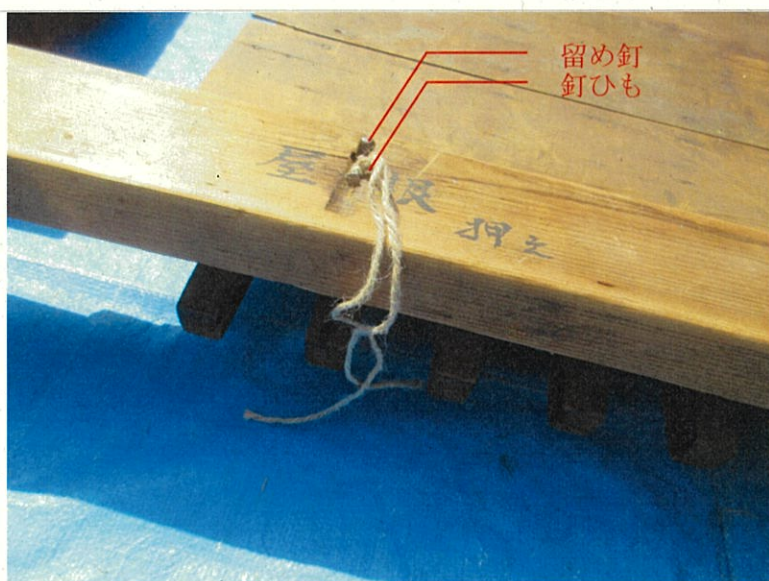
- ・ 腕木端部を接木によって造り替える必要があるかもしれない。修理方法は大工に相談のうえ決定する。



鍛冶屋町壽老臺

軒押さえと軒板

6 枚の軒板を 2 本の軒押さえで固定している



鍛冶屋町壽老臺

軒押さえと軒板

各軒板に 2 箇所ずつ留め釘（鉄の平釘）が打たれ、その上に留め釘を貫通させるための穴があいた軒押さえを載せて、釘ひも（ひもが付いた釘）を留め釘の首部の穴に通して固定している。



鍛冶屋町壽老臺

軒押さえと軒板

現在、12 箇所の留め釘は、抜けているか、または深く沈みすぎているかのいずれかであり、そのため釘ひもを首部の穴に通すことができず、軒押さえを軒板に十分に固定することができない状態である。



鍛冶屋町壽老臺

下山後方の琵琶板裏面の反り止め材



鍛冶屋町壽老臺

下山後方の琵琶板裏面の反り止め材

琵琶板の反りや曲がりを防ぐための棒状の反り止め材が3箇所付いている。



鍛冶屋町壽老臺

下山後方の琵琶板裏面の反り止め材

現在、琵琶板裏面の反り止め材の一つが、蟻ほぞ部分の割損により取れてしまっている。



鍛冶屋町壽老臺
中山台輪端部

中山台輪の各端部には彫刻（木鼻獅子）を固定するための木製パーツが丸釘の打ち込みによって取り付けられている。



鍛冶屋町壽老臺
中山台輪端部

現在、台輪 1 本の端部にひび割れが生じ、彫刻を固定するための木製パーツを留める釘が効かない状態である。



鍛冶屋町壽老臺
中山台輪端部

同上



鍛冶屋町壽老臺

下山縁葛下の腕木

下山縁葛下の腕木のうち 2 個において
ほぞ穴から端部にかけての部分が欠損
している。



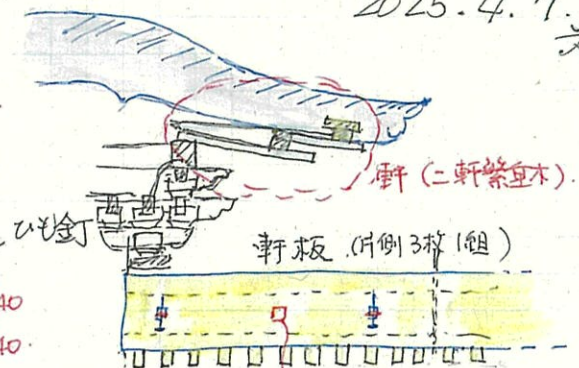
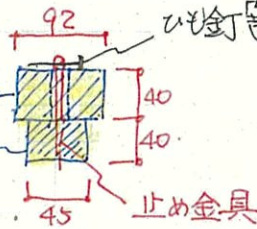
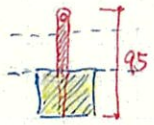
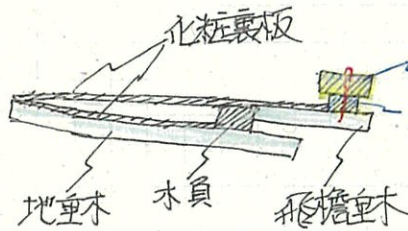
鍛冶屋町壽老臺

下山縁葛下の腕木

同上

鍛冶屋町車山現地確認

1. 上山屋根の軒板、軒押え(裏甲)



- 軒板の新規に止め金具を打つ
- 裏甲にも新規に穴をあける。
- 既存の金具と穴は存置(横断防止)
- ※ 止め金具6本を新規製作
既存品に倣う(寸法・形状)

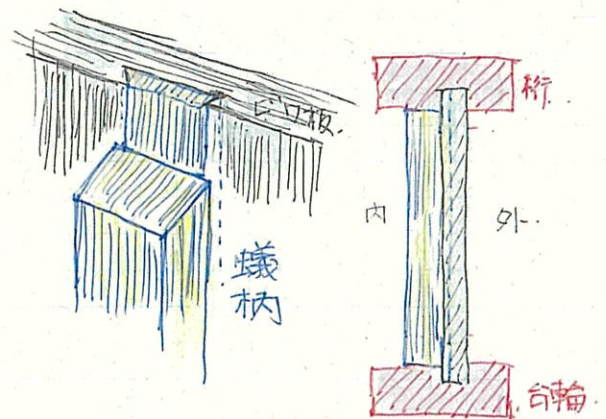
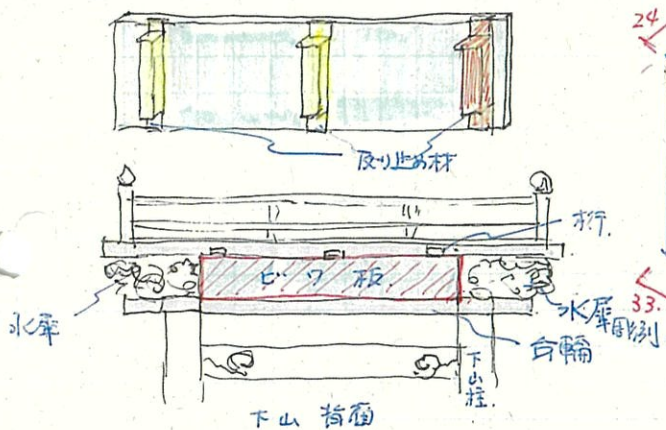
修理方法

上山屋根の左右の軒は、地垂木・飛檐立木・木負・茅負・化粧裏板で構成される軒板(片側3枚1組)と1本の軒押え(裏甲)で固定する構造。
軒板1枚につき、茅負の左右2ヶ所に、頭部に釘穴をあけた長さ95mm程度の止め金具を打ち、軒板と3枚並べた状態で、金具の位置に穴をあけた1本の軒押え(裏甲)を上から取り付け、軒押え上部へ出た止め金具の頭部の釘穴へひも釘を通して固定する。

現状

これまでの組みばらしが要因とされている。止め金具の抜け落ち、あるいは止め金具の茅負への沈み込みによる軒押え上への頭部の出不足で、ひも釘を通すことができなくなり、軒板の固定が困難な状況である。

2. 下山後方柱間 枇杷板 (h: 230mm ① 12mm)



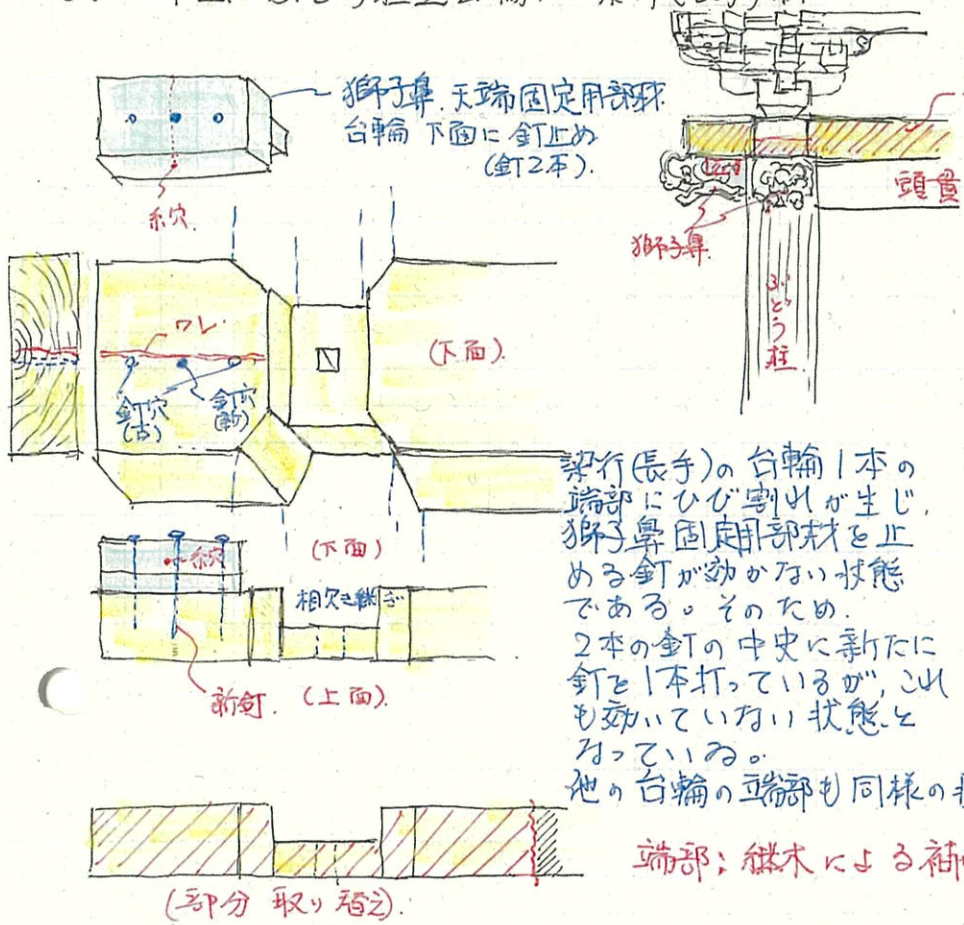
下山背面柱間の台輪と桁の向(隅桁の水障彫刻内)の枇杷板(板小壁・幕板)の中央・左右に板の反りやたれみを防止するための反り止め材が取り付けられている。蟻柄と接着剤(当初は膠か)による。

現状 右側の反り止め材が、側面から加えられた力によって、蟻柄が欠損し、はがれた状態となっている。構造的には大きな問題はないが、部材の損傷として修理が必要。

修理方法

枇杷板の蟻穴は健全であるので、中古の修理で付着した接着剤(ボンド)を剥し取り、新たな反り止め材を同寸同形で製作して、取り替える。
接着剤は膠、もしくは木工用ボンド、二液性エポキシ樹脂(可逆性のあるもの)を使用する。

3. 中山・ぶどう柱上台輪 梁行(長手)材



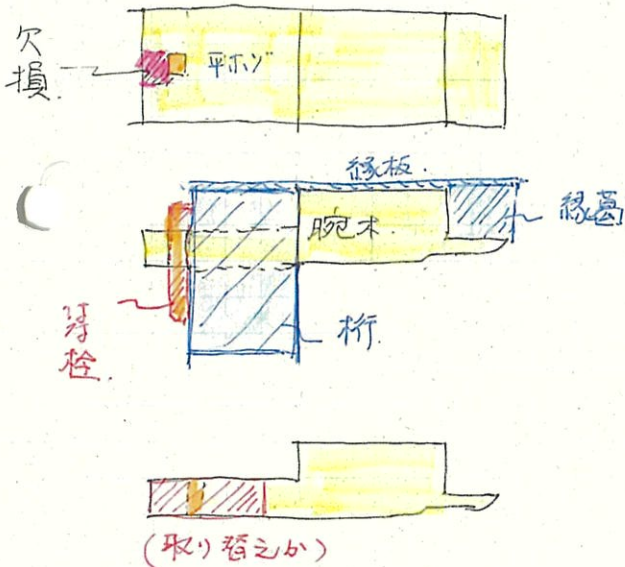
中山・ぶどう柱上台輪は、桁行(正背面・短手)と梁行(側面・長手)を柱上で相欠き継ぎとし、柱の外へ端部を張り出す。張り出した台輪の下端には、柱側に取り付けに獅子の周縁木鼻の胴部分が取り付け、獅子鼻を固定するための台状の部材が台輪端部の下面に釘2本で打ち付けられており、部材の側面中央には、小さい糸穴があけられており、ここに糸(釘金)を通して、獅子鼻を固定する。

梁行(長手)の台輪1本の端部にひび割れが生じ、獅子鼻固定用部材を止める釘が効かない状態である。そのため、2本の釘の中央に新たに釘と1本打っているが、これも効いていない状態となっている。他の台輪の端部も同様の状態に近い。

端部、継木による補修が必要か……

修理方法
大工さんと相談

4. 中山・廻縁 緑蔭受け腕木



中山四周の廻縁の緑蔭を受ける腕木は、下山柱上の桁に、後端部の平ボツを挿し込み、桁から出るボツ穴には、はな栓と通して固定する。

はな栓を強く打ち込むため、ボツ穴の後方に割れ生じて欠損し、はな栓が交加ない状態の腕木がある。

修理方法：大工さんと相談

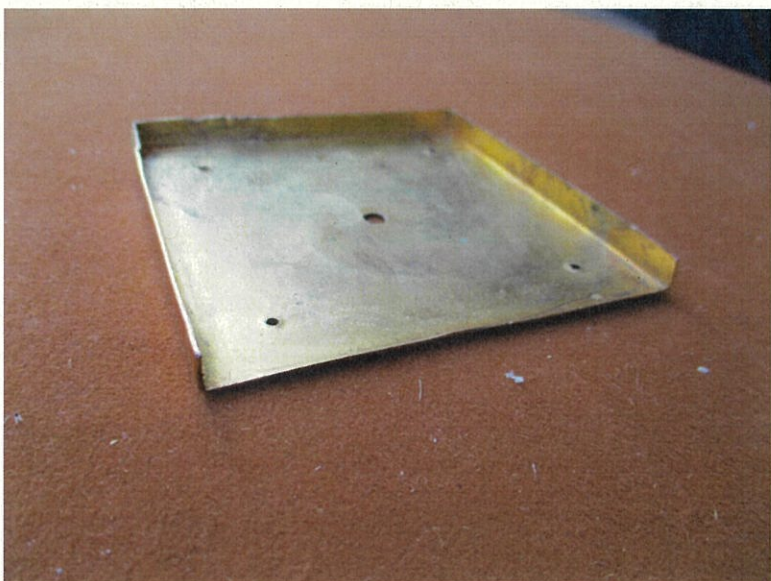
1～4. いずれの修理方法も、大工さんに現状を見てもらって、助言を得て下さい。



名栗町絳英

中山縁葛交差部の隅叔首の先端
(木口) の飾り金具

令和7年犬山祭の際に落下した。



名栗町絳英

中山縁葛交差部の隅叔首の先端
(木口) の飾り金具 (裏面)

同上



隅叔首先端
(金具脱落箇所)

名栗町絳英

中山縁葛交差部の隅叔首の先端
(木口) の飾り金具

同上

中本町車山「西王母」



中本町保存修理事業 修理概要

(1) 文化財の概要

イ. 名称等

名称	所在地	指定年月日	備考
犬山祭の車山行事 (中本町)	犬山市内(中本町)	H18.3.15.	中本町懸装幕 (水引幕復元新調)

ロ. 過去における事業の内容とその実施年度(自費事業を含む)

天保 04 年(1833)	からくり人形修復	
天保 11 年(1840)	車山修復	
慶応 03 年(1867)	下山幕新調	←今回復元新調中の水引幕
明治 35 年(1902)	唐子人形修理	
大正 11 年(1922)	中幕新調	
昭和 47 年(1972)	下山柱復元新調	<県費補助事業>
昭和 50 年(1975)	上山・中山修理	<県費補助事業>
平成 03 年(1991)	車山構造外装修理	<県費補助事業>
平成 13 年(2001)	水引幕修理	←今回復元新調中の水引幕
平成 14 年(2002)	からくり人形復元新調	<県費補助事業>
平成 20 年(2008)	梶棒復元新調	<県費補助事業>
平成 27 年(2015)	水引幕修理(網掛け保護)	←今回復元新調中の水引幕
令和 06 年(2024)	水引幕復元新調(右面)	<国庫補助事業>

ハ. 復元新調する幕の現在(修理前)の状況

中本町の車山「西王母」に懸装される現用の水引幕「金地瑞雲麒麟文様刺繍幕(前後左右各 1 面)」は慶応 3 年製作と伝えられ、図柄や製作仕様からさらに幾分古い時期のものである可能性も考えられる。製作時以来の経年変化によって相当な損傷が見られたことから、平成 13 年に全面的な綴じ直しの修理、平成 27 年には損傷部分を覆う網掛け刺繍による保護措置が行われている。現在、幕全体にわたり刺繍糸の剥落や綴じ糸の欠損などが進んでいるが、再度の修復は不可能な状態であり、早期に新調する必要がある。

(2) 事業の内容

イ. 概要

修理内容(予定)

令和 6 年度

- ・水引幕(右面) 1 面の復元新調
- ・水引幕刺繍内の金具(水引幕 4 面分)の復元新調

令和 7 年度

- ・水引幕（前後面）2 面の復元新調

令和 8 年度

- ・水引幕（左面）1 面の復元新調
- ・水引幕天部の現用鋸金具（水引幕 4 面分）のクリーニングと調整

工期

令和 6 年 4 月～令和 9 年 3 月（予定）

請負業者及び契約金額

令和 6 年度

（株）龍村美術織物 金 14,828,000 円（契約済）

令和 7 年度

（株）龍村美術織物 金 18,194,000 円（契約済）

令和 8 年度

— 金 12,738,000 円（見込）

ロ. 工事事務

- ・犬山祭伝承保存委員会です承された修理方針に基づき、犬山祭の車山行事（中本町）修理委員会の監修のもと、適切に事業を実施する。

〔修理委員会の構成〕

中本町代表者

鬼頭秀明氏（犬山祭伝承保存委員会委員長）※R6 監修者（6 月以降）

藤井健三氏（犬山祭伝承保存委員会委員）※R6, R7, R8 監修者

久保智康氏（犬山祭伝承保存委員会委員）※R6 監修者（6 月迄）

- ・国庫補助事業の特別会計を設け、帳簿を作成し、適切に予算を執行する。
- ・詳細な修理記録を作成する。

ハ. 工事仕様

別紙仕様案参照

R7



水引幕（金地瑞雲麒麟文様刺繍幕）

前面

製作時以来の長年にわたる経年変化によって著しく損傷していたため、平成 13 年に全面的な修理、平成 27 年に網掛け刺繍による保護措置を行っている。修理によって外観が損なわれているうえ、今後の使用にも耐えない状態となっている。

R7



水引幕（金地瑞雲麒麟文様刺繍幕）

後面

前幕に同じ。

R8



水引幕（金地瑞雲麒麟文様刺繍幕）

左面（進行方向向かって左）

前幕に同じ。

R6



水引幕（金地瑞雲麒麟文様刺繍幕）

右面（進行方向向かって右）
前幕に同じ。



水引幕細部

平成 13 年の修理、平成 27 年の保護措置以後も幕の損傷が進んでいる。

※水引幕 4 面とも、広範囲にわたって刺繍糸の劣化、剥落、欠損が見られる。



水引幕細部

綴じ糸の欠損による刺繍糸の剥落が進んでいる。

※水引幕 4 面とも、広範囲にわたって刺繍糸の劣化、剥落、欠損が見られる。



R6

水引幕刺繍内の金具

麒麟の黒目が4面で計12個、白目が4面で計12個、牙が4面で計6個付いている。原品を保存し、新調幕用の金具を復元新調する。

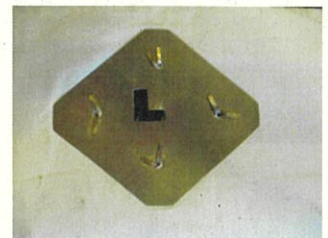


R8

水引幕天部の木瓜紋鍔金具

4面で計18個付いている。原品をクリーニングし、新調幕で再用する。

裏座金



犬山祭 中本町 西王母 水引幕 復元新調仕様書

原幕をもとに、現在の技術を駆使し、素材も含め可能な限り原品に近い復元を行う。
また、各工程においても万全な管理体制のもとに制作を行う。

水引幕「金地瑞雲麒麟文様刺繍幕」(前面・後面)

表地(本紙)裂 総刺繍

- | | | |
|------|-----|---|
| ① 技法 | 地場: | 本金(丸金糸)の折り返し駒詰め。 |
| | 麒麟: | 絹糸による唐縫り・撚り金糸の駒詰め。
部分的に紙縫り・ワタを用いた盛り上げ。 |
| | 髭: | 巻き立て刺繍。 |
| | 瑞雲: | 絹糸による唐縫りの駒縫い。 |
| ② 素材 | 繡糸 | 正絹
本金糸 |
| | 綴じ糸 | 正絹 |
| | 目・牙 | 銅製黒漆焼付・銅製水銀箔鍍銀・洋白の金具を使用 |
| ③ 色数 | | 19色(本金糸含) |
| ④ 染料 | | 主として酸性染料・含金反応染料(堅牢染) |

上辺部裂・覆輪裂(前後左右幕共通・下記の項目含)

黒羅紗 1.4mm

上辺部・吊り板 白木平板(桧)

天部の銚金具 前面4個・後面4個 原品再利用

芯地 綿布

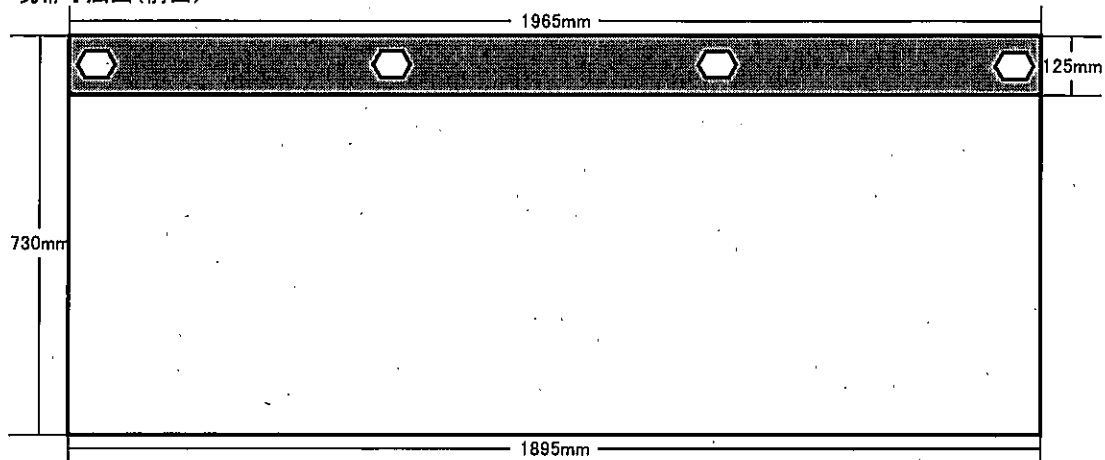
裏裂 麻

仕立て ① 規格寸法 外寸 約 (H) 745 × (W) 1960 (mm) ※前面・後面共
詳細は車山本体への取付状態等により調整予定

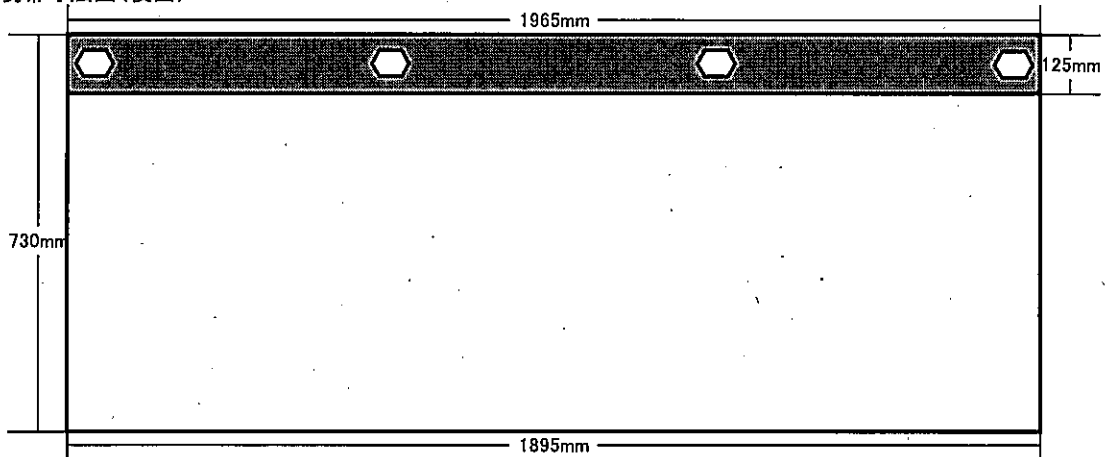
② 縫製 縫製及び仕立ては原幕仕様に準じて、巡行に耐えられる
堅牢なる仕立てを行う。

中本町水引幕「金地瑞雲麒麟文様刺繍幕」寸法図

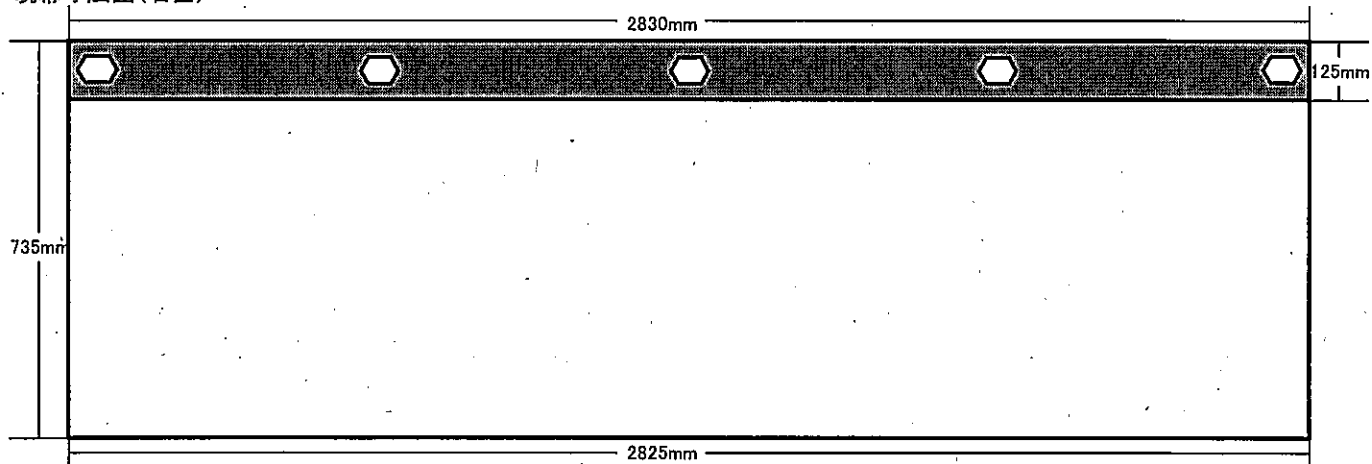
現幕寸法図(前面)



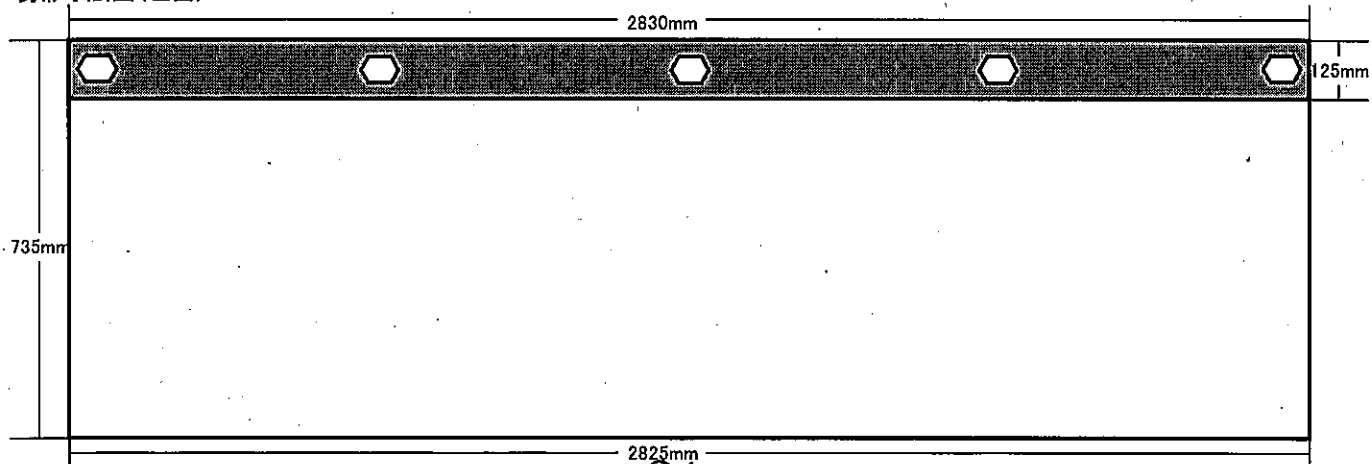
現幕寸法図(後面)



現幕寸法図(右面)

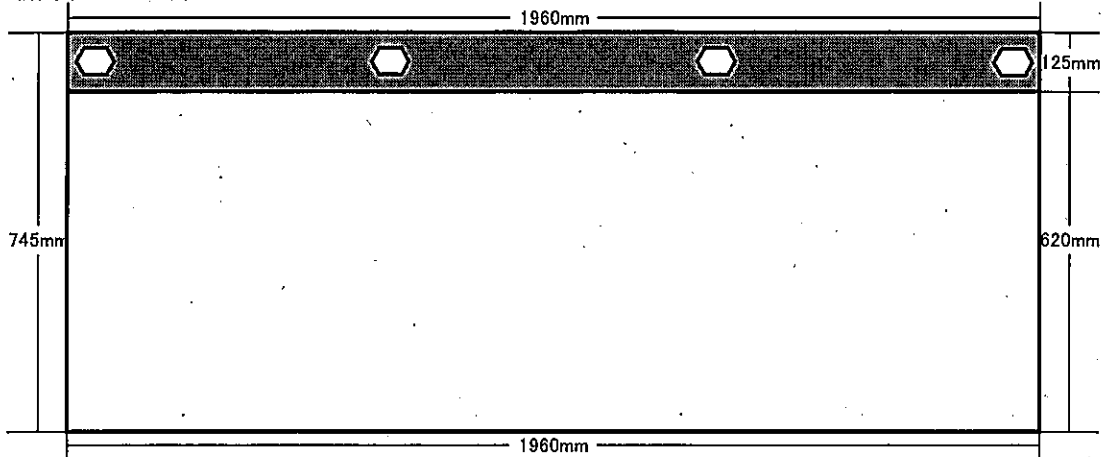


現幕寸法図(左面)

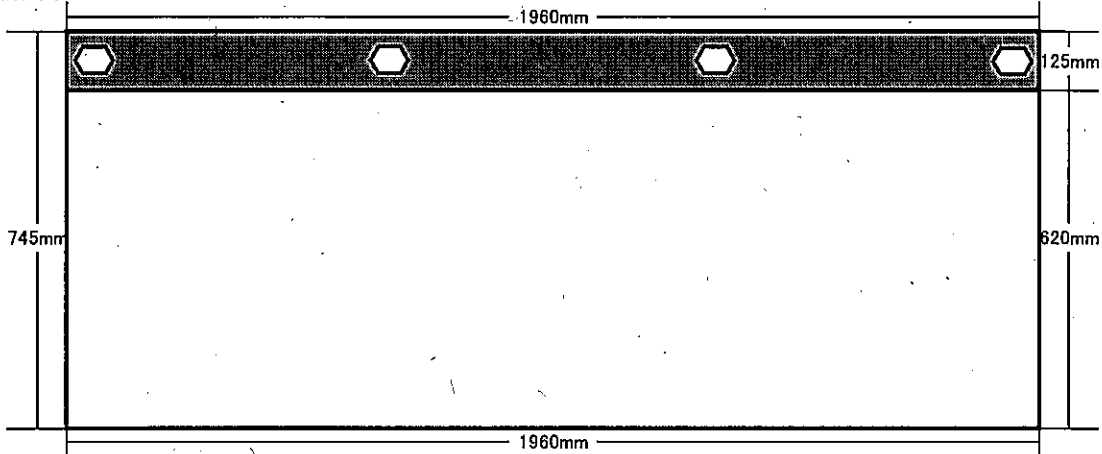


中本町水引幕「金地瑞雲麒麟文様刺繍幕」寸法図(案)

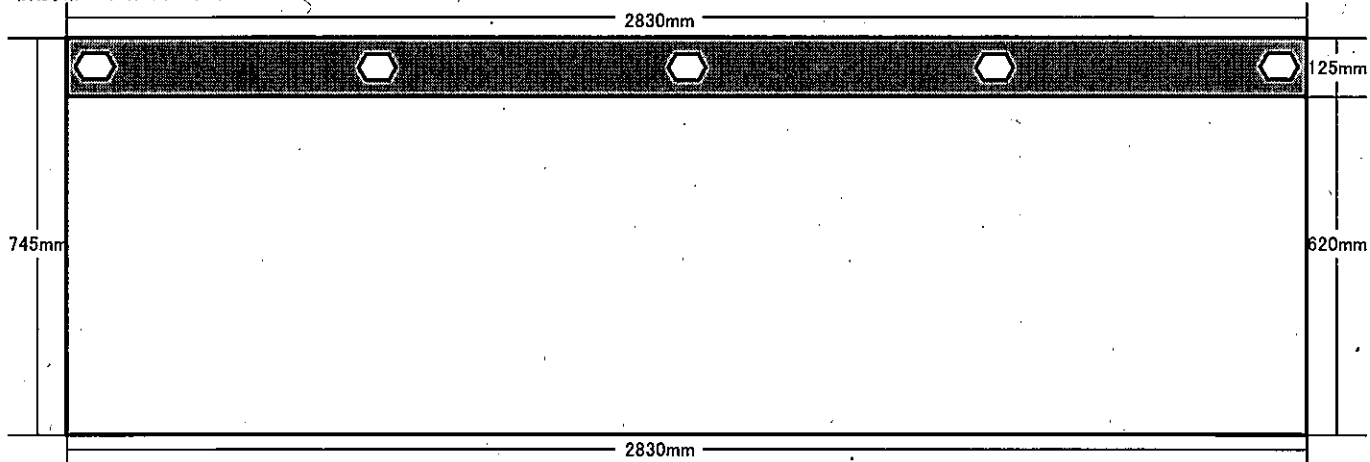
新調幕寸法図(前面)



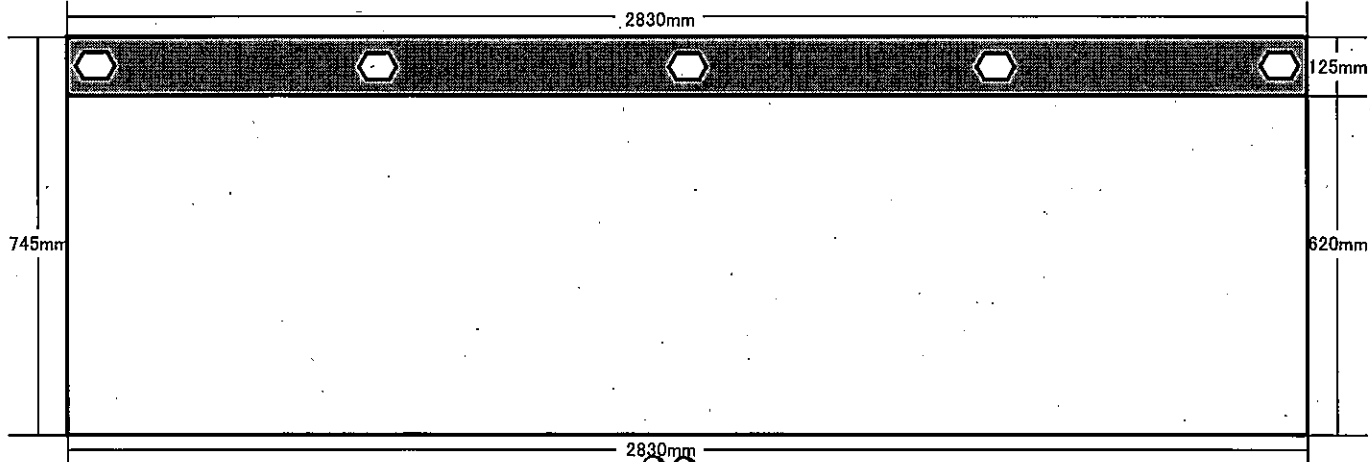
新調幕寸法図(後面)



新調幕寸法図(右面)



新調幕寸法図(左面)



23

内 訳 書

令和 7 年 4 月 9 日
株式会社 龍村美術織物

No.	名 称	仕 様 寸 法	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
犬山祭「中本町 水引幕」復元新調							
1	制作費		1	式		8,500,000	
2	刺繍費	正絹・本金糸使用	4	枚		30,000,000	
3	仕立費(羅紗地・裏地代他含む)		4	枚		1,200,000	
4	鋳金具	目12個、牙6個	1	式		1,800,000	
5	吊り板		4	本		100,000	
				小 計		41,600,000	

各幕等の寸法等については、調査概要及び復元新調製作仕様案に基づき、随時検討の上調整いたします。

		R6～R8		R6(1年目)		R7(2年目)		R8(3年目)	
1	制作費	1式	8,500,000	1式	2,500,000	1式	4,000,000	1式	2,000,000
2	刺繍費	4枚	30,000,000	1枚	9,000,000	2枚	12,000,000	1枚	9,000,000
3	仕立費	4枚	1,200,000	1枚	350,000	2枚	500,000	1枚	350,000
4	鍔金具	1式	1,800,000	1式	1,600,000	0式	0	1式	200,000
5	吊り板	4本	100,000	1本	30,000	2本	40,000	1本	30,000
	小計		41,600,000		13,480,000		16,540,000		11,580,000
	消費税		4,160,000		1,348,000		1,654,000		1,158,000
	合計		45,760,000		14,828,000		18,194,000		12,738,000

寺内町車山「老松」



寺内町保存修理事業 修理概要

(1) 補助事業に係る文化財の概要

イ. 名称等

名称	所在地	指定年月日	備考
犬山祭の車山行事 (寺内町)	犬山市内 (寺内町)	H18.3.15.	寺内町老松車 (車輪の復元新調等)

ロ. 過去における事業の内容とその実施年度 (自費事業を含む)

文化 12 年 (1815)	赤幕新調
文政 13 年 (1830)	上山改修工事 (三層の車山となる)
弘化 04 年 (1847)	からくり人形製作
元治 01 年 (1864)	水引幕新調
大正 05 年 (1916)	中幕新調
昭和 11 年 (1936)	赤幕新調
昭和 47 年 (1975)	からくり人形修理 < 県費補助事業 >
昭和 57 年 (1982)	車山漆箔修理工事等 < 県費補助事業 >
昭和 58 年 (1983)	中幕新調
平成 05 年 (1993)	夜山用中幕新調
平成 09 年 (1997)	からくり人形修理 < 県費補助事業 >
平成 13 年 (2001)	芯棒・六本柱復元新調 < 県費補助事業 >
平成 17 年 (2005)	梶棒復元新調 < 県費補助事業 >
平成 22 年 (2010)	芯棒・大引・中大引復元新調 < 国庫補助事業 >
平成 22・23 年 (2010・11)	水引幕復元新調 < 国庫補助事業 >

ハ. 現在 (修理前) の状況

寺内町の車山「老松」の車輪は製作年代が不詳であり、長年にわたる使用によって真円形であった車輪が楕円形に変容している。特に左前輪では長径と短径の差が大きく、それが他の車輪との不調和をもたらして、押しても止まってしまう場合があるなど運行に支障を来している。楕円形の車輪ががたがたと揺れ、輪の内側が芯棒に接触するため芯棒包み金物を留めるビスの頭が取れている。外周の状態も極めて悪く、傍方向へは材を打ち足すことが可能であるが木口方向には足せないため、全体として円を相当小さくする以外に真円形の車輪に戻すことが不可能である。見付面にも割れが多数見られる。消耗を伴う足廻り部材としては、すでに耐用の限界を超えている。車輪は安全な運行の要であり、早期の復元新調を必要としている。

(2) 補助事業の内容

イ. 概要

修理内容 (予定)

- ・車輪一式の復元新調
- ・芯棒包み金物一式の修理調整

工期

- ・令和7年4月～令和8年3月 (予定)

請負業者及び契約金額

(有)八野大工 金 7,480,000 円 (契約済)

ロ. 工事事務

- ・犬山祭伝承保存委員会です承された修理方針に基づき、犬山祭の車山行事 (寺内町) 修理委員会の監修のもと、適切に事業を実施する。

[修理委員会の構成 (予定)]

寺内町代表者

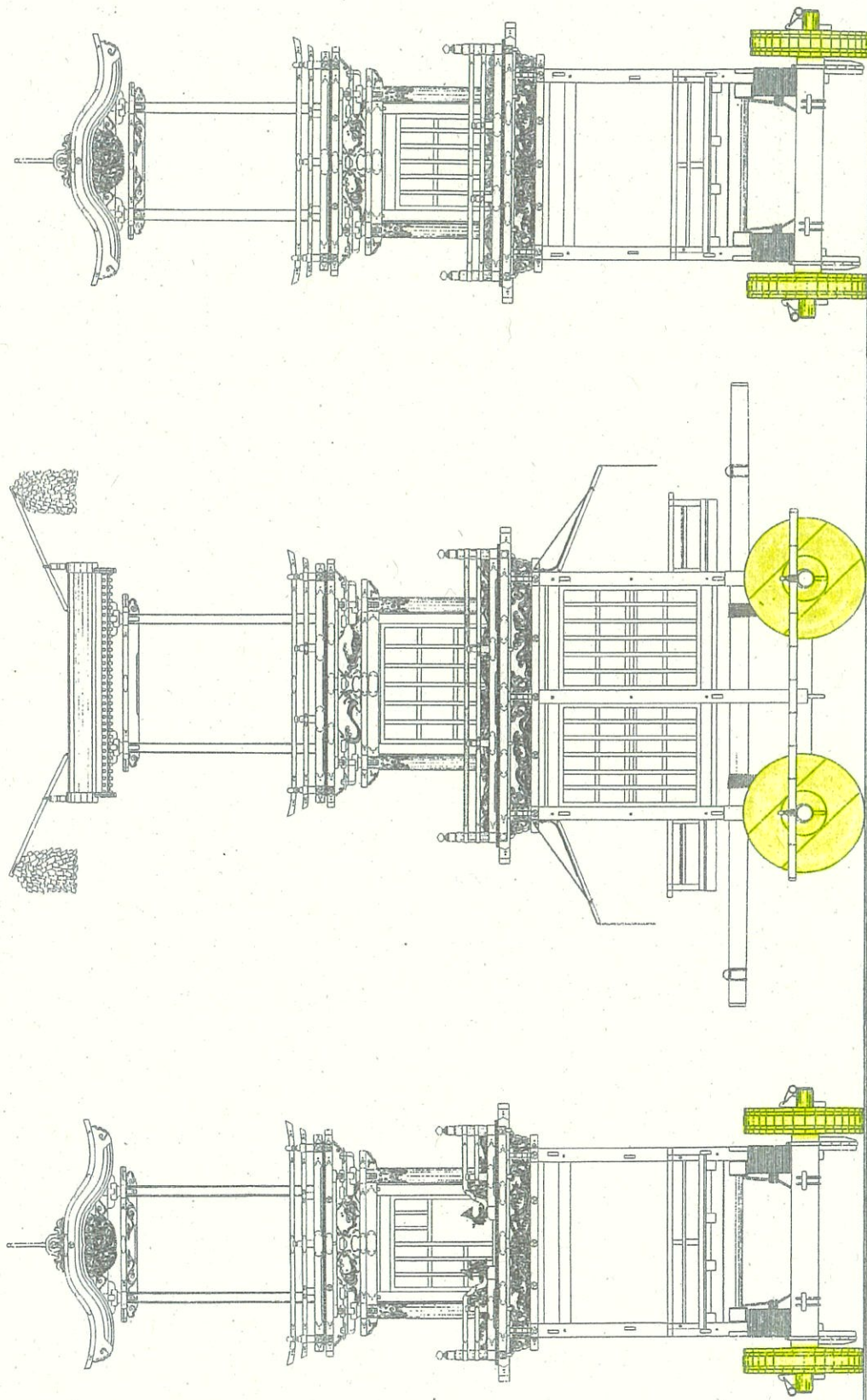
鬼頭秀明氏 (犬山祭伝承保存委員会)

岩田敏也氏 (犬山祭伝承保存委員会) ※監修者

- ・国庫補助事業の特別会計を設け、帳簿を作成し、適切に予算を執行する。
- ・詳細な修理記録を作成する。

ハ. 工事仕様

別添仕様案参照

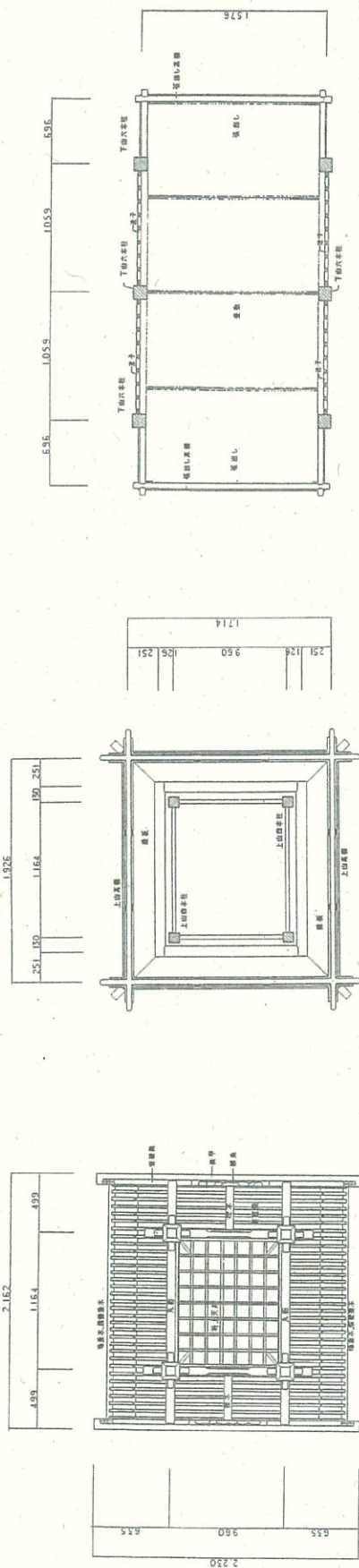


背面 立面図

右側面 立面図

正面 立面図

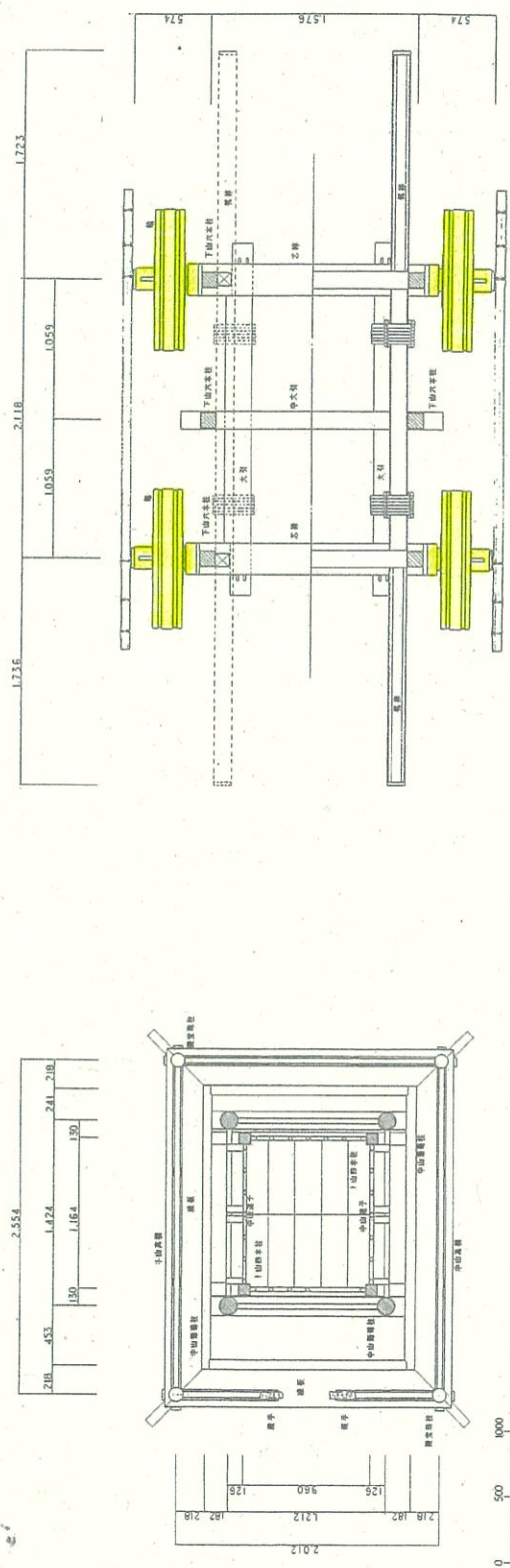
0 500 1000
寺内町 老松



上山 天井図

上山 平面図

下山 平面図



寺内町 老松

中山 平面図

台車部 平面図

寺内町車山の車輪 現況（修理前）写真



寺内町車山の車輪（計 4 輪）

車輪が楕円形になっている（特に左前輪で顕著）

4 輪とも長径と短径に差があり、運行に支障をきたしている（押しても止まってしまうことがある）



寺内町車山の車輪（計 4 輪）

外周の状態が非常に悪い



寺内町車山の車輪（計 4 輪）

外周の状態が非常に悪い

寺内町車山の車輪 現況（修理前）写真



寺内町車山の車輪（計4輪）

芯棒包み金物

左：木口包金具

右：筒金具

筒金具と木口包金具が接合されていないため芯棒が元折れしたときに鉄部の応力が不安である



寺内町車山の車輪（計4輪）

楕円形の車輪ががたがたと揺れ、輪の内側が芯棒に接触するため芯棒包み金物（筒金具）を留めるビスの頭が取れてくる



寺内町車山の車輪（計4輪）

芯棒包み金物（筒金具）を留めるビスの頭が取れている

寺内町車山の車輪 現況（修理前）写真



寺内町車山の車輪（計４輪）

見付面にも割れが目立つ



寺内町車山の車輪（計４輪）

見付面の接地付近部分の割損が多い



寺内町車山の車輪（計４輪）

見付面の接地付近部分の割損が多い

犬山祭 寺内町車山車輪復元新調工事仕様書（案）

1. 工事名称 寺内町車山車輪復元新調工事
2. 工事場所 寺内町車山蔵、請負業者作業場等
3. 工 期 令和7年度（予定）
4. 工事概要

寺内町車山は昭和57年度に全解体修理、平成22年度に芯棒の新調がされている。この時の事業に車輪修理は含まれていなかったが、これ以降経年による車輪直径寸法の不揃いや鉄輪の緩みが進行し、また部材にも割れや欠損があり、曳行に支障をきたす状況となっている。このことから車輪の新調を実施する。

5. 破損状況等

①車輪

- ・車輪は直径3尺5寸～3尺4寸3分（1,060～1,039mm）、厚み0.73尺（221mm）の中央、両脇の板材の積層による板車、外周に鉄輪を3本巻き付けてある。
- ・車輪、鉄輪の各部材の寸法は次のとおりである。※表示寸法は木部分
進行方向向かって左前：（長径）3尺5寸 （短径）3尺4寸8分
左後：（長径）3尺4寸5分（短径）3尺4寸3分
右前：（長径）3尺4寸7分（短径）3尺4寸5分
右後：（長径）3尺4寸6分（短径）3尺4寸5分
鉄輪（中央）：幅90mm、厚さ12mm
鉄輪（両側）：幅32mm、厚さ9mm
- ・車輪の破損状況は各所に割れ、欠損が目視にて確認できる。また側面の接地付近部分の欠損が多い。
- ・鉄輪は中央、両側を繋ぎ材にて溶接固定されているが接合不良箇所が目視で確認することができる。

②芯棒筒金具

- ・筒金具と木口包金具が接合されておらず芯棒が元折れしたときに鉄部の応力が不安である。
- ・筒金具と木部の隙間があり、それにより筒が左右に回転しようと動くため鼻栓を損傷する状況になっている。

6. 工事量

区 分	摘 要	員 数	備 考
①着手準備	記録用写真撮影、実測調査等	1 式	
②搬出・解体調査			
・車輪、芯棒の搬出	車輪 1 輪、芯棒 2 本の搬出	1 式	
・車輪の解体	車輪の解体	1 輪	
・施工図作成	工法・技法調査後の作成	1 式	
③車輪工事			
・木工事	取り替え木材	1 式	
	仕口、加工図作成	1 式	
	木材加工、組立	1 式	
・金具工事	鉄輪（中央）（両側）曲げ加工	4 輪	1 輪につき 3 本
	面取り加工	4 輪	〃
	焼き嵌め	4 輪	〃
	座板製作	4 組	両面 1 組
・塗装工事	拭き漆塗り	4 輪	
④芯棒筒金具			
・金具取り外し	筒金具、木口包金具	4 本	
・金具固定	溶接にて固定	4 本	
・取付け	隙間埋め、取付け調整	1 式	
⑤搬入・取付け	車山蔵に車輪・芯棒の納入	1 式	
⑥完了届	各工程及び完了写真を添付	1 式	
⑦完了検査	請負人、寺内町修理委員会の立会	1 式	

7. 仕様書

1) 一般共通事項

①総則

この仕様書は概要を示すもので、記載のない事項は寺内町修理委員会の指示に従い施工する。

②監修者

監修者は、非常勤で当該工事を監修する。このため工事請負者は、事前に仕様書及び工程などの打ち合わせをおこなう。

③施工基準

当該工事は、設計図書（仕様書、図面など）により、契約書を遵守し施工する。疑義が生じた場合は、直ちに報告し、監修者の指示により施工する。

④技術管理

主任技術者は、車山・曳山等修理工事の経験が豊富で、社寺建築の修理経験者または同等以上の技能を有するものとする。

⑤材料検収

納入材料は監修者の検査を受けて合格した材料のみを使用する。

⑥検査

施工途中の検査は、監修者の監修時に随時おこなう。また工事完了検査は、事前に必要な図書及び写真などを整え、寺内町修理委員会に提出のうえ、監修者の検査を受ける。

⑦記録写真

記録写真は、正確に日付調整したデジタルカメラを使用し、納入材料、工事施工中に随時撮影し、工事完了届に添付して寺内町修理委員会へ提出する。

⑧保険など

請負人は労働保険、その他法律で定められた事項の全ての手続きをおこない、適正な処置を講じる。

⑨資料などの発見及び保存

部材に墨書などを発見した場合は、速やかに監修者に報告する。

⑩その他

工事請負者は、車山及び車山蔵などを損傷しないように注意を払って施工する。万一損傷した場合は、速やかに工事請負者の負担で復旧する。また危険防止ならびに防火対策については、常に配慮し、適切な処置を講じる。

2) 工事仕様

①搬出・解体調査

イ) 概要

車山蔵からの搬出・施工業者作業所にて解体調査をおこなう。

ロ) 搬出

調査対象の車輪1輪と、芯棒2本の搬出をおこなう。

ハ) 解体

実測調査、写真撮影完了後、順序よく丁寧に取り外す。

車輪は鉄輪を切断し、中央・両側板の各部材に符号等にて位置記録をして、取り外し見え隠れ部分の工法、技法調査をおこない、新材加工の資料とする。

ニ) 養生

取り外した部材は、破損、汚損が生じないように部材ごとに養生し、保管する。

②車輪工事

イ) 概要

車輪4輪の新調をおこなう。

ロ) 材料

新調材は国産材で、歪みや腐れ等の欠点のない良質材とする。伐採後数年間の乾燥期間を経た含水率20%以下の乾燥材とする。

車輪材 ケヤキ材、芯去材、無節、赤身

ハ) 工法

新調する車輪は、原則として旧形、旧工法を踏襲する。

車輪は現状の車輪の解体調査に基づき、製作図を作成する。製作図完成後、寺内町修理委員会の検査を受け、合格したものに基づいて木取りをおこなう。現状の車輪に倣って製作加工し、従来どおり順次組み立てる。

ニ) 鉄輪

中央 SS400 巾 100mm 厚さ 12mm 面取り 4 本 焼き嵌め

両側 SS400 巾 32mm 高さ 41mm 厚さ 9mm L 型 面取り 8 本 焼き嵌め

ホ) 座板

座板 (両面 1 組) SS400 直径 380mm 厚さ 外側 4.5mm (真鍮)・内側 6mm (鉄製)

皿ボルト固定

ヘ) 塗装

塗装は拭き漆塗りを 3 回おこなう。

③ 芯棒筒金具

イ) 概要

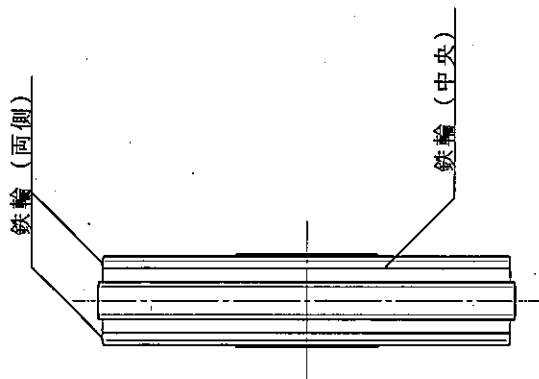
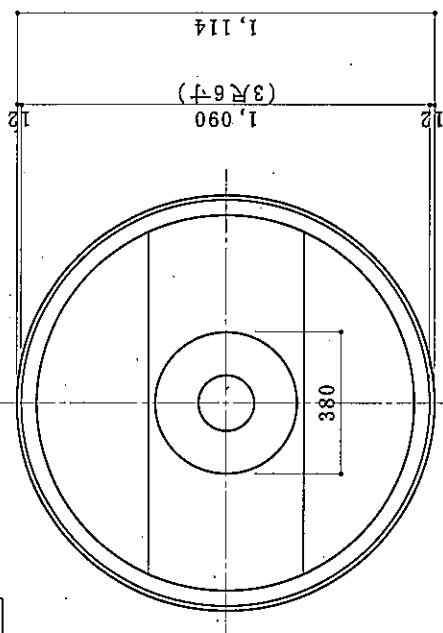
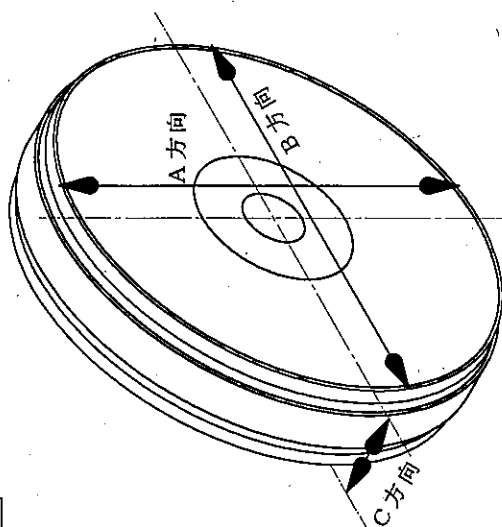
筒金具の修理、調整をおこなう。

ロ) 工法

芯棒から筒金具、木口包金具を取り外して溶接固定をおこない、筒金具と木部の隙間を充填・埋木をしたのち取付けをおこなう。

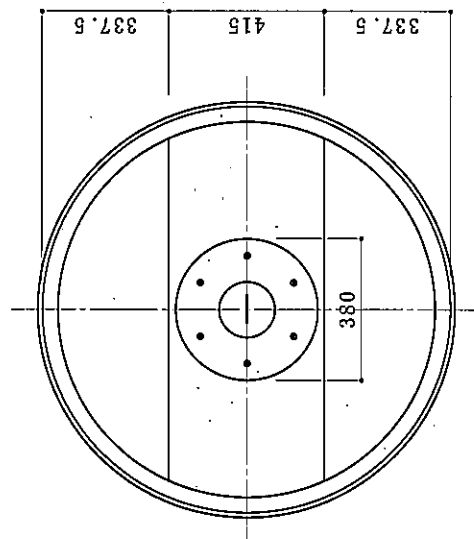
現況

新調



表

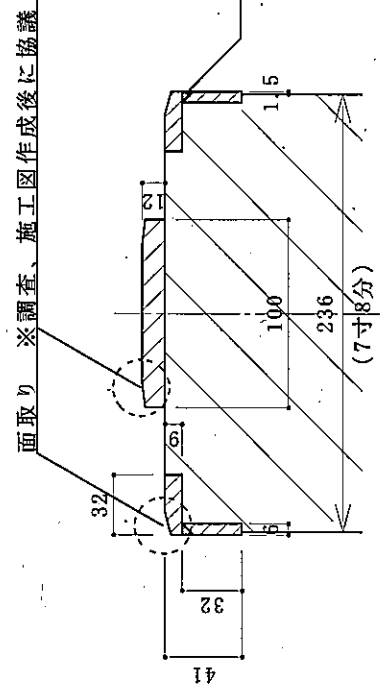
側面



裏

現況調査寸法

場 所	A 方向	B 方向	C 方向
左 前	3尺5寸	3尺4寸8分	7寸3分
右 前	3尺4寸7分	3尺4寸5分	7寸3分
左 後	3尺4寸5分	3尺4寸3分	7寸3分
右 後	3尺4寸6分	3尺4寸5分	7寸3分



1/4

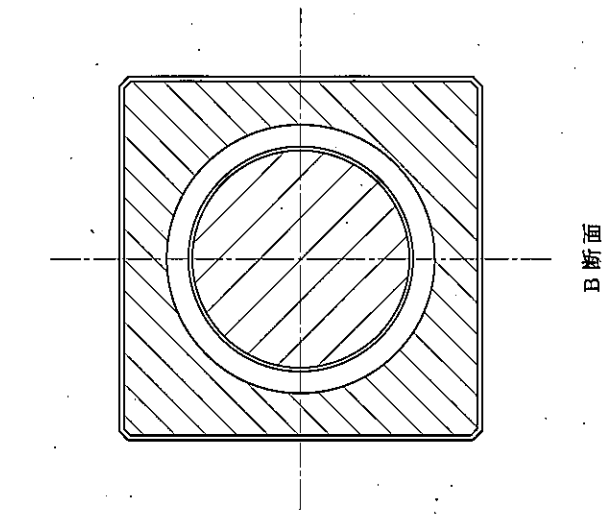
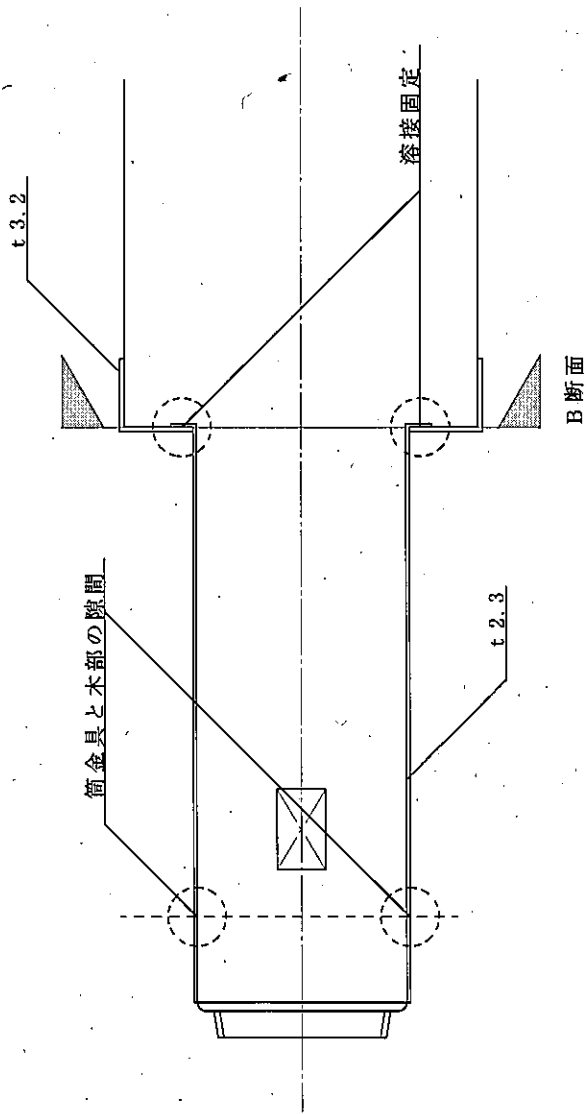
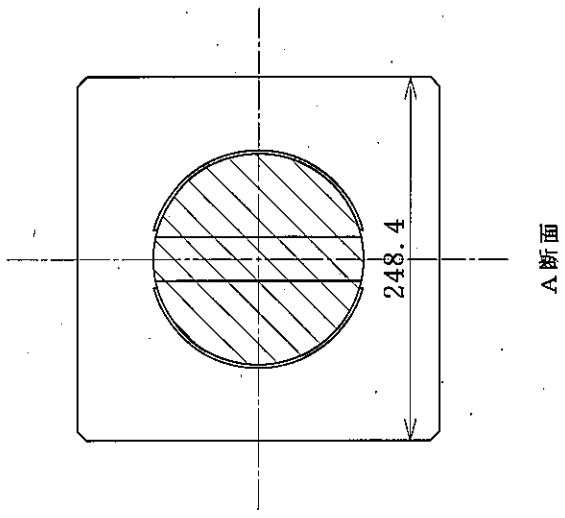
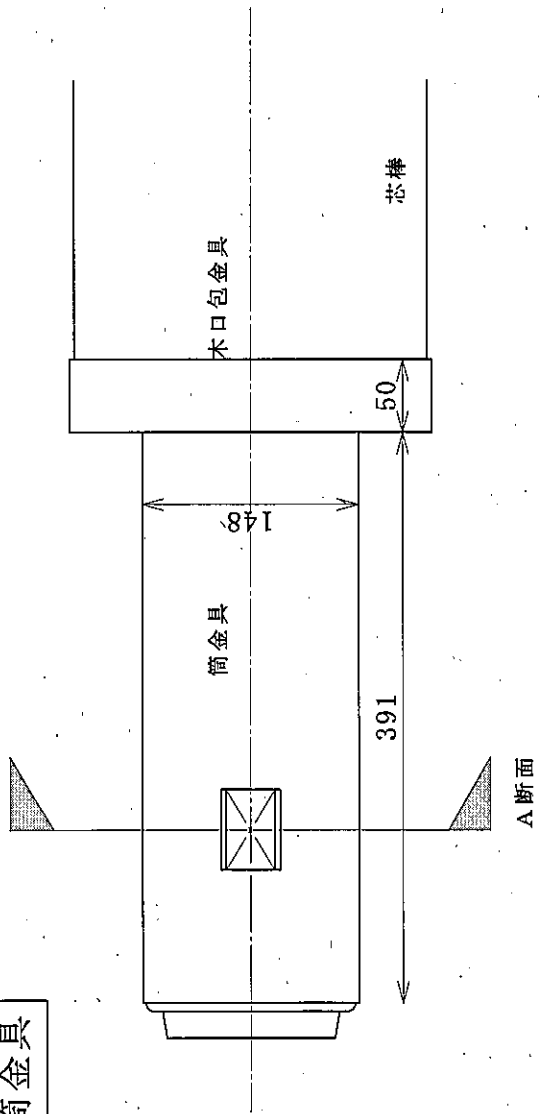
図 面 名

縮尺

犬山祭 寺内町車輪新調詳細図

1/20

筒金具



図面名	縮尺
犬山祭 寺内町芯棒筒金具詳細図	1/15

御 見 積 書

令和 7 年 4 月 9 日

寺内町 様

工事名称 犬山祭 寺内町車輪復元新調

下記のとおり御見積申し上げます。

見 積 金 額 ￥7,480,000 -

内工事費 : 6,800,000 -
消費税 (10%) : 680,000 -

工事概要 : 車輪4輪の復元新調

工事場所 :

支払期間 :

有効期限 : 12カ月

有 限 会 社 八 野 大 工

代表取締役 八 野 泰

〒506-0824

岐阜県 高山市 片野町1丁目117番地の1

TEL 0577-34-3205

FAX 0577-34-3405



工事費内訳書

名	称	仕	様	数量	単位	単価	金額	摘要
犬山祭	寺内町車輪復元新調							
調査費			芯棒形状・寸法・解体調査 製作図面作成等	1.0	式		160,000	
車輪 (中)	材料費		樺材 415×242×1,100	4.0	丁	200,000	800,000	芯去材
車輪 (両脇)	材料費		樺材 338×242×1,100	8.0	丁	180,000	1,440,000	芯去材
木地加工費			荒取り、寸法加工、墨付け、刻み、組立	4.0	輪	300,000	1,200,000	
鉄輪 (中央)			SS材 巾90×t12×内径φ1,090程度	4.0	輪	165,000	660,000	
			円周調整、焼嵌め、ズレ止施工					
鉄輪 (両脇)			SS材 L型制作 38×t9、32×t6 溶接加工	8.0	輪	135,000	1,080,000	
			円周調整、面取り加工、焼嵌め、ズレ止施工					
座板			φ380×t6 両面 皿ボルト取付け共	8.0	枚	25,000	200,000	
塗装			拭き漆塗り 3回	4.0	輪	120,000	480,000	
芯棒筒金具			取り外し、溶接固定、仕込み調整、取付け	4.0	箇所	40,000	160,000	
工事費計							6,180,000	
諸経費				1.0	式		620,000	
合計							6,800,000	

犬山祭伝承保存委員会 寺内町車山車輪等現場確認 記録

日程： 令和 6 年 8 月 20 日（火） 11:00～12:00

会場： 寺内町車山蔵

出席者： 委員

岩田敏也氏

寺内町

三輪征宏氏

協力業者（㈲八野大工）

八野泰明氏

事務局（市教育委員会歴史まちづくり課）

市野恵子

1. 車輪の復元新調について

- ・ 復元新調仕様全般
 - ・ 車輪は消耗品であり、道路も昔に比べて硬くなっているため、何十年かごとに取り替える必要がある（岩田委員）。
 - ・ 仕様は現行案で問題ない（岩田委員）。
- ・ 車輪の復元寸法（直径・厚み）
 - ・ 長年の使用と修理によって削られ、小さくなっているため当初の寸法に復するために現状より大きい寸法で復元新調する（岩田委員）。
 - ・ 契約後に現車輪（1 輪）の解体調査をする。その時に元々の車輪の寸法を推定できるので、その時点で詳細な復元寸法を検討するのがいい（八野氏）。
- ・ 車輪の構造（接ぎ方）と新調後の部材の収縮
 - ・ 平成 20 年度に車輪を復元新調した枝町は、平成 25 年度に耐久性をより長く確保するために鉄輪の締め直しを行っている。これは復元新調を計画した段階から想定されていた（事務局）。
 - ・ なるべく締め直しの必要がないように部材を用意したいと考えているが、可能性として三枚接ぎの部材の 1 枚につき 1～2mm 寸法が変わる（＝収縮する）ことがある。10 年後あたりの締め直しを想定する必要がある（八野氏）。
 - ・ 三枚接ぎが本当にベストなのか。一枚の輪はどうか（三輪氏）。
 - 三枚の方が収縮度合いが少なく、収縮した場合の調整もしやすい（八野氏）。
 - 犬山の車輪の大きさに一枚の輪にするだけの材は入手が難しく、できたとしてもかなり高価になる（岩田委員）。
 - ・ 材を他で調達して加工のみ依頼することは可能か（三輪氏）。
 - 可能である（八野氏）。
 - ・ 仕様書案では「新調材は国産材で歪みや腐れ等の欠点のない良質材とする。伐採後数年間の乾燥期間を経た含水率 20%以下の乾燥材とする」とあるが、これは自然乾燥か（事務局）。
 - 自然乾燥である（八野氏）。

- ・ 鉄輪

- ・ 運行時に中央の鉄輪で接地するように設計してもらっている。現況も概ねそうになっている（三輪氏）。
- ・ 3本の鉄輪を相互に繋いでいる鉄帯も復元するのか（岩田委員）。
→鉄帯は鉄輪にズレが生じてきたために応急的な補強として町内で付けたものであり、新調時にしっかりと焼き嵌めしてもらえば不要なものである（三輪氏）。
- ・ 寺内町の希望により両側2本の鉄輪は今回の新調時にL型にする計画である。見附面の保護のためであり、犬山の車輪の鉄輪は、締め直しの機会に両端の形状をL型にしてきており、施工後の経過も良好である（事務局）。

2. 芯棒筒金具について

- ・ 木口包金具との接合

- ・ 芯棒が元折れしたときの鉄部の応力が不安であるため溶接固定をする。筒金具と木部の隙間を充填・埋木する（八野氏）。

3. その他

- ・ 真鍮製のベアリング（ワッシャー）のことを寺内町では「油よけ」と呼んでいる。車輪の表と裏に1枚ずつ設置している。グリスホールを加工してあり、グリスが芯棒に不要に広がるのを防ぐ効果がある（三輪氏）。
- ・ 復元新調後、旧車輪（令和6年現在使用中の車輪）は車山蔵内で保管すること（岩田委員）。

犬山祭伝承保存委員会 寺内町車山車輪等復元新調仕様検討会 記録

日程： 令和7年3月7日（金）13:30～15:30

会場： 寺内町車山蔵

出席者： 委員

鬼頭秀明氏、岩田敏也氏

寺内町

三輪征宏氏、岩井信明氏

協力業者（㈲八野大工）

八野泰明氏

事務局（市教育委員会歴史まちづくり課）

市野恵子

1. 着工までのスケジュールについて

- ・ 寺内町が6月6日の御神木の祭りに車山を出す都合上、解体調査に供する車輪1輪と芯棒2本の引渡し日程は、6月8日（寺内町による車山解体予定日）となる。
- ・ 上記引渡し後、すぐに解体調査を実施すれば、事業の年度内完了は可能。ただし、木取りをしてから半年ほど養生期間を設ける必要があるため、現時点でおおよその製作寸法を決める必要がある。製作寸法の確定は解体調査の結果を考慮して行い、調整が必要な場合は調整する。

2. 復元新調仕様について〔確認事項〕

- ・ 工法（全般）
 - ・ 可能なかぎり現在の車輪の工法を踏襲する。
- ・ 車輪外寸
 - ・ 現在は車輪が楕円形に変形しており長径と短径の差にもばらつきがあるが、最大の直径が1061mmであり、13町内で最小の外寸である。
 - ・ 長年の使用と修理によって、木部が収縮し、また削られて小さくなっているので当初の寸法に可能なかぎり復し、且つ運行のしやすさや安全面にも配慮して、現状より若干大きい寸法（直径3尺6寸＝1090mm）で復元新調する計画とする。
- ・ 車輪厚み
 - ・ 現在の車輪の厚みは221mmであり、これも13町内で最小である。
 - ・ 長年の使用と修理によって、木部が収縮し、また削られて小さくなっているため当初の寸法に可能なかぎり復し、且つ車切の際の安定性（ぶれ防止）にも配慮して、現状より若干大きい寸法（7寸8分＝236mm）で復元新調する計画とする。
- ・ 車輪の接合
 - ・ 現在の車輪と同様に、三枚接ぎで各部材を雇いほぞで接ぐ。ほぞ穴は各接合面に8箇所（寺内町車山蔵に掲示されている過去の解体時の写真で確認）。
- ・ 鉄輪
 - ・ 現在の車輪は運行時に中央の鉄輪で接地している。車切の際は車輪が傾くため両端の鉄輪から

見附面にかけても接地している。

- ・現在の車輪において3本の鉄輪を相互に繋いでいる鉄帯は、鉄輪にずれが生じてきた際に応急的な補強として町内で付けたものであるため、新調する車輪には付けない。新調する車輪の鉄輪は、焼き嵌めし、ずれ止めの釘を各鉄輪8本程度打ち込む。

- ・両端2本の鉄輪は今回の新調時にL型にする。形状の変更は見附面の保護のためであり、犬山祭の他町でも、締め直しの機会に両端の鉄輪の形状をL型にしてきており、施工後の経過も良好である（13町内中、現在およそ半数の町がL型としている）。

→L型の鉄輪を埋め込むために見附面を削る工法は旧来の車輪の形状を変更することでもあり「見附面を保護する」とことと矛盾する点もあるが、鉄輪による輪締め自体が当初からのものではなく、硬く舗装された道路に対応するために過去のある時期から始められた対策である。L型への変更は、車山を曳行し、祭りを存続していくうえでやむを得ない変更と言える。

→他の町に倣って安易に仕様を変更することは犬山祭の車山の原型が失われていくことに繋がる。今回のようなやむを得ない変更であっても形状の変化（旧状と新調後）についての記録は必ず残す。

- ・中央の鉄輪の幅は100mm、両端の鉄輪の幅は32mmとし、安全と道路面の保全のために角は面取りする。

・ 車輪座板

- ・現在の車輪の見附面には鼻栓が見附面を擦った跡が付いているが、新調する車輪の座板の径は変えない（現在の座板の径と同寸とする）。
- ・鉄製の座板（外側）は鼻栓が当たることによって塗装が剥げ錆が生じるため真鍮製の座板での新調を検討する。既に取付けられている部材であり、形状や寸法を大きく変更するものではない。

・ 芯棒筒金具と木口包金具との接合

- ・現在は、芯棒筒金具と木口包金具とが接合されておらず、芯棒が元折れしたときの鉄部の応力が不安であるため溶接固定をする。筒金具と木部の隙間は充填・埋木する。

・ その他

- ・解体調査のために引渡す車輪は、進行方向向かって右前の1輪とする。
- ・工事完了前に車輪の接合面に記録として製作年、寺内町の町民名、施工業者名を墨書する。
- ・復元新調後、現在の車輪は車山蔵内で保管する。
- ・令和7年度の岩田委員の年間監修スケジュールは今後調整する。解体した車輪の現地確認については、町内の希望も含め改めて調整する。